

Bisansui (炭酸次亜水) 水虫・たむしへの適用

Bisansuiは医薬品ではありませんが、菌に対し次亜塩素酸（HOCl）が作用し菌を不活化します。歯科医において歯周病菌の治療に使われるのも同じ理屈になります。以下、具体的な適用方法を参考にして下さい。



1. 次亜塩素酸水による白癬菌の退治

水虫・たむしは真菌の一種白癬菌の感染により発症する。次亜塩素酸が白癬菌に接触すると菌の核から電子を奪い（酸化）菌は死滅する。白癬菌が皮膚内部まで入り込んでいない初期段階では、患部を次亜塩素酸水に浸すことにより白癬菌を退治することができる。しかし、白癬菌が皮膚内部まで入り込み病状が進んだ状態では、患部を次亜塩素酸水につけただけでは次亜塩素酸水が皮膚内部まで浸透せず、皮膚内部の白癬菌を退治することは難しくなるため、早期に使用する事が必要。「あっ！痒いな」・・・と感じたら即実施！

2. 水虫対策

足の水虫の場合、Bisansuiの原液200ppmに5分程度患部を漬けおきする。洗面器やバスブーツ（百均で十分）にBisansuiを入れ、足を浸すのが良い。なお、皮膚は汗や脂肪酸等の分泌物で汚れているので、これらを石鹼等でよく洗い流しておかないとBisansuiの効果は十分に発揮されない。

また、Bisansuiは通常の水より表面張力が大きいので、皮膚への浸透性が悪い。手指を使って肌に擦りこむようにすると良い。処置のタイミングとしては、1日1回、入浴後、皮膚がふやけた状態がより効果的である。全身に広がっている場合は、Bisansuiを張った水槽につかると良い。

3. たむし対策

水虫対策同様、患部をBisansui原液に5分程度浸す。肌に密着するスイムパンツを着用し、Bisansuiに十分浸したタオル等を患部に当てると良い。漏れなければ直接Bisansuiをパンツ内に入れても良い。たむしの場合、水虫のように皮膚深部まで白癬菌が侵入していない（皮膚表面部に水分が多い）ため、Bisansuiによる効果は期待できる。処置のタイミングは水虫対策と同様。



4. 感染防止

(1) 風呂

白癬菌は感染力が高いので、足ふきマットの供用等で感染する。湯上りにBisansui（冷水）のシャワーを浴びる等の処置は感染リスクを抑制する。或いはBisansui原液（200ppm）をボトルからスプレーする等。



(2) 洗濯

菌が付着した状態で洗濯すると、無菌の着衣に菌が移動する可能性がある。すすぎが不十分であれば菌が付着した着衣から感染するリスクが発生する。すすぎの最終段階（汚れや洗剤等が残らない状態）でBisansuiによるすすぎを行うと菌の除去ができ、生乾きによる悪臭も除去できる。

面倒だが、2槽式洗濯機を用いるのが良い。



5. 浸透性を向上させるためには

炭酸次亜水の浸透性を向上させる目的でナノバブルBisansuiも存在する。結球野菜の隙間や養殖エビ外殻の隙間に炭酸次亜水を浸入させるためのものである。炭酸泉の技術を応用したもので、通常のBisansuiより低い表面張力で流動性が良いので浸透性が期待できる。

もし、Bisansui原液で効果が薄い場合にはお試し頂ければと思います。

